



交通安全教室~岡山市北区奥田二丁目の活動~

楽しさの中から命の尊さを学習



日時: 平成 30 年 8 月 10 日

場所:マイクロメイト岡山株式会社 交通安全 ~まなびのば~

対象:幼児・小学生・中学生とその家族

主催:NPO 法人 安全と安心 心のまなびば

協力:岡山操山ライオンズクラブマイクロメイト岡山株式会社

「NPO 法人 安全と安心 心のまなびば」と「マイクロメイト 岡山株式会社」は、地域を安全で安心に暮らしていける街に するために活動をしている。

平成 30 年 6 月 9 日、奥田本町の小学生とその家族を対象に交通安全教室が開催された。

その後も、地域の交通安全に対する熱は冷めることなく、 平成30年8月11日には、奥田二丁目の幼児・小学生・中学 生とその家族ら約30名が交通安全教室に参加した。

この日は、幼児・低学年・高学年・大人(中学生と父兄)の 4 班に分かれて、30 分間の座学の後、機材の体験を通して学 んだ。

また、当日は日ごろから連携して活動をしている岡山操山 ライオンズクラブ員も応援にかけつけ指導を担当した。

学習内容や体験風景を次のページから記載している。





【幼児】

紙芝居による、標識や 信号の意味を正しく学んだ。

担当者:鳥海 十児

(岡山操山ライオンズクラブ)

【低学年】

信号の意味の理解や 横断時の左右をしっかり確認 することの大切さ、シートベルトを 着用する大切さ、決まりを守る 大切さを楽しく学習した。

担当者:木村 熹從

(NPO 法人 安全と安心 心のまなびば)





シートベルトが 僕たちの<mark>命を守ってくれる</mark>から、 後ろの座席でも必ず着けよう。





子どもの安全教育は家庭から

岡山の中学生の無免許運転死亡事故を教訓に

川崎医療福祉大学 名誉教授 主幹総合交通心理士 指導健康心理士 NPO法人 安全と安心 心のまなびば 代表 金 光 義 弘

はじめに

8月号の本誌コラムで、今年7月の西日本豪雨災害を経験して、改めて自然災害に対する備えと日頃の地域における「共助」の大切さに気付かされたことを述べました。猛暑の中、懸命に復旧と復興に向けた多方面の方々の活動が続いています。心から敬意と感謝の意を表したいと思います。そして一日も早く、被災された方々の日常生活が取り戻せることをお祈りします。

実は8月号の原稿を書く直前に、岡山では誠に残念な交通事故がありました。7月1日(日曜日)の早朝、岡山市内の国道30号線で、中学生が運転する車が運転操作を誤って中央分離帯に激突して大破した結果、1名が死亡、4名が重傷を負うというものでした。事故の背景の詳細は分かりませんが、新聞やTVやネットのニュース等によると、13歳の中学2年生5人が乗り合わせていたこと、そのうち一人が無免許で車を運転していたこと、相当のスピードを出して走行中に運転操作を誤って中央分離帯に乗り上げ、鉄製ポールに激突し大破したこと等が報じられています。

読者の皆さんはこの事故について、どのようなことをお考えになったでしょうか。

分からないことばかり

先ず筆者が知りたいと思ったことは、①何故 13 歳の中学生が無免許で車を運転できたのか? ②5 人の中学生の中の一人の親が所有する車がどのようにして使われたのか? ③ 親は日ごろ子どもが運転することを知っていたのか? ④彼らの家族は子どもの日ごろの生活習慣や生活態度にどこまで関与していたか? ⑤彼らは岡山市内と倉敷市内にある 4つの中学校の生徒らしいが、どのように知り合ったのか? ⑥当日彼らは何の目的で 5 人が乗り合わせて車を走らせたのか? ⑦事故を起こすまでの車の走行状況はどうであったか? ⑧車内の様子はどうであったか? ⑨彼らの学校での生活状態はどうであったか? ⑩学校関係者は彼らの生活態度をどの程度把握していたのか? などなどです。

いずれも謎が多いと同時に、俄かに信じがたいことばかりです。真相が明らかになる前に、ネットではさまざまな情報や見るに堪えない誹謗中傷が飛び交っています。しかし我々一般市民は、分からないこと、可哀そうなこと、親の無関心が招いたこと、バカな中学生

の自業自得、などと他人事として片づけてよいものでしょうか。これからの我が国の安全 を担う世代の生き方や価値観に関心を持ち、彼らとともに望ましい方向に歩みを進めなけ ればならないのではないでしょうか。

教育関係者の対応

この事故を受けて、岡山市及び倉敷市の教育委員会は遺憾の意を表すとともに、生徒の 生活習慣及び安全指導を徹底して再発防止に努める旨の決意を述べられました。おそらく 4 つの中学校でも全校生徒に対して、夏休みの間にこの事故を教訓とした安全教育と指導を 推進されていると思われます。

事故後にまだ当該教育関係者の方とお会いして諸事情や具体策をうかがっていないので、確かなことは申し上げられませんが、おそらく大変頭を悩ましておられることと推察します。以前別件で、私どもの調査の依頼にお邪魔した校長先生が、「子どもが下校した後は学校の手が及ばないところであり、日々子どもの安全を祈る気持ちばかりです」と話されたことを思い出します。

ゆとり教育が終わり、ますます学習指導の重みが増すにつれて、安全教育や生活指導に 割ける時間数は少なくなる一方だそうです。それだけに学校が独自に安全教育に取り組む には限界があり、今後は PTA との連携を強めつつ、双方の役割分担を明確にする時が来て いるのではないでしょうか。例えば基本的な安全教育は学校での履修科目の中に位置づけ、 自転車を含めた実践的な安全指導は日常生活の中で保護者が担うといった、相補的な役割 分担をきちんと協議したうえで実行する必要があると考えます。

保護者・家庭の対応

今回の事故などに対しては、ともすると安易な責任論が取りざたされがちです。安全教育を怠った学校が悪い、子どもの躾を怠った家庭が悪い、といった類の批判がネットのツウィートにも多くみられます。しかし責任追及だけでは事故の再発防止に役立たないことは、現代社会のさまざまな不祥事の後始末を通して誰もが知っています。大事なのは責任の所在にあるのではなく、事故や事件の背景に潜む複合的な要因を分析し、根本的な改善策を構築することにあるのです。

その意味で今回は、中学生の保護者あるいは家族による安全指導のあり方とともに、彼らの生きる意味の育み方が問われると思います。難しく聞こえるかもしれませんが、決して過大なことを言っているのではありません。例えば安全指導については、①大人が日頃とっている安全行動を子どもに見せているか(子どもを車に乗せる際のシートベルト着用、交通ルールの順守、他者への思いやり運転、等)、②子どもの自転車や歩行等の実際を見て評価しているか(危険行動に対する注意、マナー順守に対する褒め言葉、等)、③交通事故等のニュースを観て子どもと話し合っているか、等のように安全に対する認識を子どもと共有することが大切です。



道路の横断と通行学習(低学年・高学年班)

機械の前に立ち、その場で足踏みをすることで、画面上の道路の映像が動き、体験が出来る。

道路の横断は手前車線では右を、奥車線では左をしっかり確認すること。歩道を歩くときにも危険が沢山あることを学習した。





自転車の学習(低学年・高学年班)

普段自転車に乗っている感覚で体験が出来る。

『発進時の後方確認の重要性』、『ヘルメットの必要性』、

『止まれの標識でしっかり止まること』、

『道路の左端を走行すること』を学習した。





身体能力の認知(中学生・大人班)



画面上のターゲットを目で追い、正しい形になればボタンを押す検査(追跡課題)と画面上にターゲットが急に出現し、正しい形ならボダンを押す(突発検査)

簡単に交通場面における総合的視覚機能の『動体認知』 を検査することが出来る。

<感想>

一度間違えると、集中力が途絶えてしまい、誤ってボタンを何度も押してしまった。これが<u>運転中じゃなくて本当によかった</u>。普段の運転から誤動作を起こさないように心がけていく。



一点を注視し、眼を動かさずに見える範囲を『視野』という。この機器では、自分がどのくらいの範囲が見えているのかを認識することが出来る。

<感想>

両目の検査を行い、上側が特に見えていないことを知り、信号の見落としには注意しないといけないと痛感した。

説明の中で人間には、15 度の角度に 『盲点』があり、見えない箇所があること を学んだ。自分自身を知ることも、交通 安全に繋がることがわかった。



歩行の復習(まとめ)



同じ道路でも、朝と夜とでは、ドライバーの見え方は違い、 横断者の服の色や車のライトの向きによっても、ドライバー に気づかれない場合がある。

夜間に出歩く時は、横断者は明るい服装を心掛け、LEDや反射材など身につけること。

ドライバーは、ライトを基本ハイビームで走行すること。

お互いが存在を伝えることで、夜間時の交通事故の減少に繋がる。



く距離感について>





中央画面に「人」「乗用車」「バス」 が表示され、前方から見ると、一番 大きい「バス」が手前に見えて、一番 小さい「人」が遠くに見える。

しかし、俯瞰から見るとどれも同じ 位置にある。

しっかり確認したつもりが、<u>相手の</u>スピードや距離を見間違えてしまい 事故に繋がるがることになる。

<確認時間について>

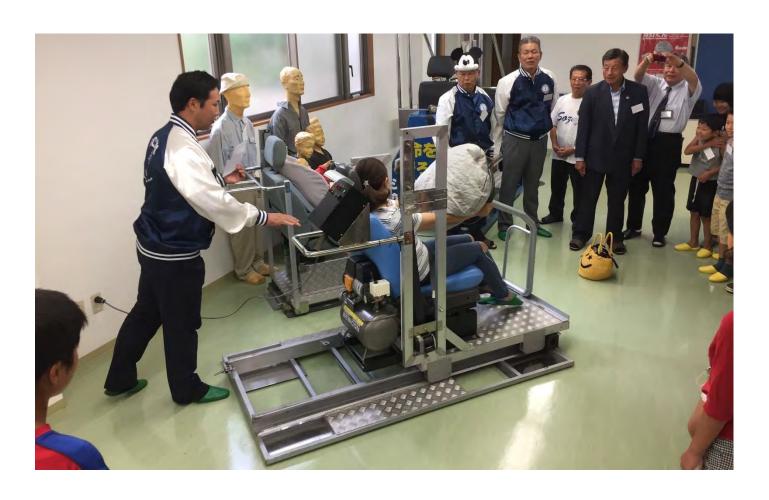
26572

中央画面にランダムで 5 桁の数字が 0.5 秒間表示され、その数字を解答する。しかし、0.5 秒間の表示だけでは、5 桁の数字を全て当てる

ことは難しい。次に別の数字 5 桁を 1.5 秒間表示すると、 大人をはじめ、子供も全ての数字を当てることができた。

つまり、左右の確認時間も、一瞬の確認ではなく、<u>1.5 秒</u> 以上「じっくり」確認をする必要がある。

シートベルト効果について(まとめ)

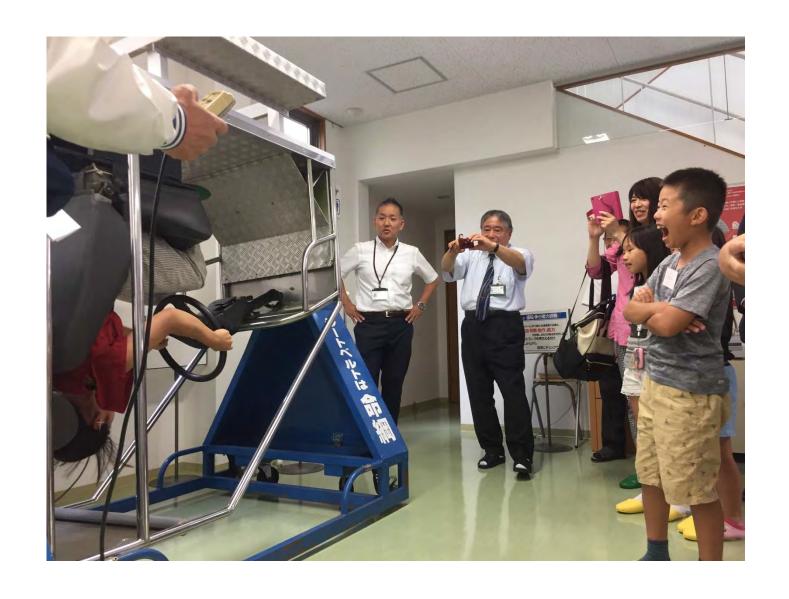


<エアバックの体験とシートベルトの必要性について>

衝突時にシートベルトを着用しておらず、エアバックが破裂してしまった場合は、直接エアバックに強打してしまう可能性があり、負傷に繋がってしまう。

シートベルトを正しく着用することで、エアバックが本来の働きをすることが出来る。

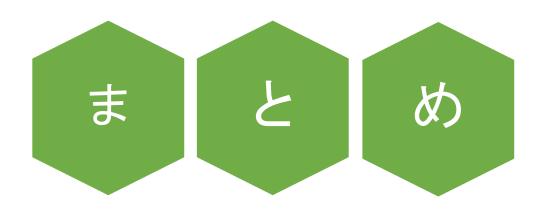
エアバックは、シートベルトの補助装置であることを学習した。



<u><シートベルトの効果について></u> シートベルトは、「鎖骨」「腰骨」の正しい位置に取り付け、 必ず「引き戻し」を行うことが大切である。

シートベルトは、衝突時のみだけでなく、横転時や傾きにも 役割を果たすことを学んだ。

運転席や助手席はもちろんのこと、後部座席も必ず着用 する必要がある。



今回の奥田二丁目の交通安全教室は、前回の奥田本町の交通安全教室の反省を生かし、講習の内容は更にパワーアップした。

講習中に、積極的に子供たちの名前を呼んであげることにより、 すぐに子供たちの心を開き打ち解けることが出来、学習効果に大き く影響した。

今回は幼児と中学生の参加もあり、幼児班は紙芝居や人形を使って飽きることなく学んでくれた。

中学生も父兄と一緒に、地域で起こった交通事故をもとに、学校や家庭の普段何気ない会話の中で、交通安全について話し合うことが大切であることを学んだ。

横断時には左右の確認を 1.5 秒以上確認すること。LED や反射材を身につけること。明るい服装にすること。ドライバーは基本ハイビームを使用することなどを学んだ。

また、シートベルトを正しい位置に取付、必ず引き戻しを行うこと。エアバックはシートベルトの補助装置であることを学んだ。

交通安全教室が楽しかったで終わることなく、その中から 命の尊さを学習すること。そして、学んだことを友達や家族、 身近な人達に伝えることを最後に約束した。

奥田の残りの町も、更なる講習のパワーアップと共に 講習を行い、安全で安心して暮らせる地域にしていきたい。 小さな活動ではあるが、少しずつ輪を広げ、続けることの大 切さを感じている。